

街歩きヒストリア



エディオンピースウィング西側にある文学碑
『屍の街』生原稿の筆跡を拡大して刻んでいます。

広島県出身の作家・大田洋子（1903～1963）。中区白島九軒町の妹宅で被爆した彼女は、その体験を基に『屍の街』『夕凧の街と人と』などの小説を著し、被爆の実相を世に伝えました。

大田洋子文学碑

基町



駐車場入口の向かいにあります。

文学碑は1978年空鞆橋東詰に建立され、その後80m北西に移転。中央公園再整備に伴い2024年に現在地へ移設されました。碑には作品の一節が刻まれています。

この場所はかつて「原爆スラム」とも呼ばれた地で、作品の中にも描かれています。「少女たちは天に焼かれる天に焼かれる…」。碑石の言葉が心の中に静かに響いてきます。

（文・写真 溝部ひとみさん）

【インフォメーション】

12月10日の命日に併せ、今月7日13時より文学碑前で碑前祭が行われ、14時からエディオンスタジアム会議室にて作家・江刺昭子さんの講演会もあります。

問い合わせは「広島文学資料保全の会」

（☎082-291-7615 ☎080-6328-7615）まで。

（66）

中央公民館エリア（白島、基町、幟町）の街の魅力などを紹介するコラム「街歩きヒストリア」。